

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090300185		
法人名	医療法人社団 三思会		
事業所名	グループホームクララ梅田		
所在地	桐生市梅田町1-385-4		
自己評価作成日	平成23年12月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成24年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームクララ梅田は、桐生に生まれた方にはなじみの深い山々や、桐生川に囲まれた、自然豊かな場所に立地しています。周囲には広いウッドデッキがあり、どの部屋からもウッドデッキに出られるため、利用者さんに季節の移り変わりを肌で感じて頂くことが出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人内に教育・医療・介護・労働に関する4委員会が設置され、管理者を除く全職員が何れかの委員会に所属し、老人介護の課題解決等に関する研鑽を積んでいる。また、事業所でも職員一人ひとりが年度当初に事業所運営やケアの質の向上などの年間目標を立て、管理者は目標に関する面談を年度当初に行い、中間や年度末の達成状況を話し合い、きめ細かな職員指導を通じ職員の資質向上と入居者のサービスの質向上に取り組んでいる。入居者で問題行動のある人を対象に「掘り下げシート」を活用し、言動や生活状況等を観察し、潜在的な希望や意向を探り、本人の望むケアの方向性の発見に努め、介護計画に反映させると共に、「ケアプラン実施記録票」に基づき介護計画をチェックし、達成状況を3ヶ月毎に評価表でまとめ、サービス担当者会議で検討するなど入居者がよりよく暮らすための取り組みを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オープン時の職員オリエンテーションの時に、クララ梅田としての施設理念を説明し、職員と共有するとともに、施設理念をホールに掲げ、常に忘れることなく、実践につなげていけるよう努力はしているが、まだまだ十分とは言えない。	利用者が有する能力に応じ、自立した生活が出来る支援、地域との関係を大切にしたい支援、他2項目の理念を掲げ、マニュアル集と共に全職員に配布し共有化を図っている。特に自立支援の方向性では、利用者個々の出来ること出来ないことを把握し、過剰な支援は利用者の誇りを傷つけることを全職員が認識し、理念の実践に向けた取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方であった時には挨拶を必ずするようにしている。まだまだ地域とのつながりは構築できていないが、近くの商店に買い物に行くなどし、きっかけ作りをしている。	開所して日が浅いため、近隣とのつきあいはこれからではあるが、近隣世帯・商店・コンビニエンスストア・郵便局等にパンフレットを配布し事業所の状況等を説明し周知活動を行うと共に、入居者の徘徊に際しての協力依頼を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括主催の「認知症家族交流会」に参加したり、介護教室などで認知症についてお話しさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の普段の生活の様子や、ホームの現状などを説明させていただき、意見をうかがうことでサービスの向上を目指している。	家族や民生委員・市の担当課職員・地域包括支援センター職員が出席し、年6回開催され、事業所の現状や行事等を報告し、意見交換を行っている。同じ悩みを持つ複数家族の参加を求めると意見の出やすい環境づくりに努めている。	自治会や老人会等の外部の方の参加を求め、話し合いを行い、そこでの意見をサービスの質の向上に活かされるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただきご理解をいただくとともに、避難訓練と一緒に参加していただきホームの現状も見て頂いている。また、利用者離脱等緊急時の協力の依頼も行っている。	運営推進会議の案内や議事録・各種申請書類等を持参した際に、市・包括支援センター・警察等で組織する連絡網を利用し徘徊者の安全確保等の協力依頼を行っている。また、包括支援センター主催の家族との交換会の会場として事業所を提供するなど、市との協力関係を築く取り組みも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っていない。また、オープン時の職員オリエンテーションにおいて、身体拘束や虐待についての勉強会を実施し、拘束しないケアの実践に努めている。	介護計画に身体拘束をしないことで想定されるリスクを記載し、家族とリスクに対する共通認識を共有している。また、身体拘束の基準や具体的な行為、人権の尊重と権利擁護等の法人全体の研修の他事業所内の研修会を行い、見守りの徹底により玄関の施錠をしない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	オープン時に、虐待についても学ぶ機会を持った。また、系列施設と介護対策委員会を設け、介護の在り方について意見交換をするとともに、職員にも課題をだし、考えてもらうことで意識付けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	オープン時のオリエンテーションの中で、成年後見人制度についても学んだ。まだまだそれらを活用し支援できるまでには及んでいないが、地域包括等のご指導をいただきながら、今後生かしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には面談を行い契約内容の説明を行い、疑問がある場合は説明をし、ご理解をいただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置。ホームに対する意見や要望を入れて頂けるようにしている。	法人が年1回家族との面談を行い、意見や要望を聴取する機会を設けている。また、事業所も家族の状況に応じ回数に拘らない面談の機会を設け、信頼関係の構築と共に意見・要望を聞きサービスの質の確保・向上に繋げる取り組みを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度職員会議を行い意見交換するようになっている。	管理者を除く職員は、法人が設置する労働委員会、教育委員会など4つの委員会の何れかに所属して老人介護の課題解決等に関する研鑽を積んでいる。労働委員会では勤務時間や職場環境等職員が働き易い職場環境づくりについて話し合っている。また、事業所では職員一人ひとりが年度当初に事業所運営やケアの質向上などの年間目標を立て目標達成に向け取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本体である老健施設に労働委員会を設置。職員が委員となり月に1度、勤務状況や労働時間また職場環境についての話し合いを行い、職員がやりがいを持って働けるような職場づくりをめざし、改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や本人の意欲を考慮し、研修に参加するよう勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内には他に3つのグループホーム(5ユニット)があり、法人内での交流は行っているが法人外での交流の機会は今の所はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からお話が伺える時には伺い、そうでない場合は、ご家族との面談の中で本人の困りごとを把握するようにしている。また、本人からいろいろとお話を伺えるような環境を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に面談を行いお話を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望で来られた方には、面談を行っている。その際、状態に応じては他サービスの利用を勧めたり、紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いなど、出来る事はお願いしやっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力を頂きたい時にはお話しし、協力を頂くよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんの中には、かかりつけの美容院に行かれたり、知人とカラオケに行かれ楽しまれたり、家族で温泉に行かれたりされている方もいる。また、ホームでは、いつでも気軽に面会に来ていただけるようにしている。	家族と共に墓参りや馴染みの食堂での外食、家族送迎の下に友人とカラオケを楽しむなど馴染みの人や場所との関係継続は家族中心となっている。	認知状況により生活の幅や人間関係・地域社会との関わりが閉鎖的になりがちなので、できるだけ地域等との接点継続のため幅広い支援を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分から他利用者に関わりを持ち楽しめる方もいるが、なかなか溶け込めない人もいて、まだまだ十分とは言えない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	前任施設(クララ相生)から継続支援し、クララ梅田に入所して頂いた利用者もいらっしやる。退所してからも出来るだけ経過を追うようにし、可能な範囲で支援させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取りが出来る方には何うようになっている。また、訴えが出来ない方については観察記録を取り、行動の意味づけをすることでニーズを探り、支援に結びつけている。	職員一人ひとりが入居者の思いや意向に関心をはらい把握に努め、個人記録や観察記録等で共通認識を図っている。特に問題行動のある入居者は「掘り下げシート」で言動等の潜在的意味を探り、課題を分析し、本人の望むケアの支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅介護支援事業所や入所されていた施設からの情報を参考にしたり、また本人やご家族からの聞き取りを行い、生活歴等を把握するよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人のアセスメントを行い、出来る事出来ない事の把握を行い、支援に生かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化がある時にはアセスメントを行い、現状に即したケアプランの作成に努めている。	担当職員が週1回「ケアプラン実施記録表」に基づき介護計画をチェックし、達成状況を3ヶ月毎に評価表でまとめ、サービス担当者会議で検討し見直しを行っている。担当職員は、家族からの聞き取りや医師・訪問看護師等との意見集約を行い、入居者の状態の変化や関係者の意向により現状に即した介護計画の変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個人記録に記入。ケアプランについては週に1度評価を行い、備考欄に職員の気づきや実施状況を記入してもらい、介護計画の見直しに役立てている。また、1日の申し送り表を作り職員間で情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に外部の受診は緊急時を除きご家族対応であるが、受診に連れて行けない時などは職員が対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりを支えている地域資源の把握はまだまだ不十分であり、支援に結びついていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所当初はかかりつけ医に受診されていた方もご家族の都合で、現在はホームに來られる往診の先生の受診を希望し受けられている。	全人居者が協力医に受診しており、受診に際しては身体状況等をFAX等で事前に情報提供を行い、急変時の往診の他、月2回の定期検診で入居者の健康管理を行っている。眼科や歯科等専門医の受診は家族が対応し、受診結果や投薬等の処方変更は互いに情報を交換し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の状態の把握を行い連絡票を作成し、職員間での情報の共有を行うとともに、訪問看護並びに医師へ適切に伝わるよう工夫している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	開所してまだ入院されたケースはないが、入院される時には相談員と連携を取りながら、対応するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にホームで出来る事、出来ない事については大まかにお話しているが、個々の利用者やご家族と具体的にどのようにするか、話し合いは行っていないので、今後機会を作り話し合っていきたい。	契約時に事業所としてできること・できないことの範囲を説明している。医療行為を必要とする場合は入院対応としているが、重度化や終末期の対応の話し合いは行っていない。	重度化や終末期に向けた事業所の方針を話し合い、関係者で共有することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアルの作成をするとともに、消防署員による心肺蘇生法の講習会を実施し学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。また、訓練にはご近所の方やご家族、市職員また地域包括の職員にも参加して頂き現状のご理解とご意見をいただくとともに、緊急時の協力の依頼も行っている。	年2回の避難訓練のうち1回は消防署の指導を受け昼間・夜間の訓練を行い、反省会を開催している。訓練には市職員や家族・近隣の人も参加し、災害時に備え飲料水や缶詰・アルファ米等の備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳の保持については、学ぶ機会を設け学んでいるが、実際の場面での課題も多い。そのため、折々に職員間で意識を高め共有できるよう声掛けや反省を行っている。	入居者の誇りを尊重し尊厳の確保を徹底するため、指示語の声かけはしない等日々の実践の中で話し合い、職員の認識の共有化を図っている。また、呼称は苗字に「さん」付けを基本としつつも本人が反応しやすい呼び方を家族と相談するなど臨機応変に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るような場面では、なるべく本人の希望を聞くように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出を希望される方に買い物に同行して頂くなど、可能な範囲で対応を行っているが、一人ひとりのペースや希望に沿った生活が出来ているかという点、対応しきれない面も多く、まだまだ十分とは言えない状況である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカットなど希望を聞きながら定期的に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ジャガイモの皮むきや野菜の下ごしらえなど、出来る事は手伝っていただいている。	献立は、入居者の希望を取り入れ、季節感のある新鮮な食材を用い調理している。また、管理者は「食事は入居者にとって一日の中で最も楽しみな時間として捉え、職員と一緒に食べることで愛情交換・信頼関係を構築できる」という基本的考えの下に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に食事摂取量を記入し、利用者の状態の把握に努めている。また、水分の摂取が少ない方には毎食ゼリーを用意し、水分を補うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の力に応じて職員が支援しながら、口腔ケアを行っている。また、夜間は入れ歯をお預かりし、消毒を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の状態を把握し、排泄の支援をしている。	一人ひとりの排泄が困難な要因をチェックし、習慣や排泄パターンに応じた支援を行っている。また、入居者のプライドを尊重し、衣服の上げ・下ろしなど本人が出来ることは時間を要してもやってもらい、出来ないことだけを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、起床時に牛乳を飲んで頂いている。また、なるべく野菜(夏はゴーヤ、冬は大根など)を摂って頂くように心掛けている。便秘の時には、温タオルを当てお腹のマッサージ等を行うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	半分ずつの人数で入って頂くなど工夫は行っている。また、入浴拒否があった利用者に対し、生活習慣やその方の性格傾向を考慮し、夜間に入浴していただいていた。(結果、入浴拒否はほとんどなくなった)	入浴は週3回を原則としているが、本人の意向に沿って臨機応変に対応している。浴室は季節に応じた温度設定を行い、羞恥心に配慮し職員と1対1でゆっくり話のできる楽しい時間となるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態に応じて午前・午後で休憩を取ってもらったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録にはその方が服用している薬の内容がファイルされている。職員はそれを把握するようにしているが、介護経験が短い職員もいるため、全員が十分把握している状態とは言えず課題も多い。今後、服薬に関する勉強会も実施していきたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いを持って生活していただけるよう支援を行うよう心掛けているが楽しみを見つけにくい方もいて、まだまだ十分とは言えない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「寿司が食べたい」という利用者さんのご家族にご協力をいただき、行きつけの寿司屋に連れて行って頂いたり、ご家族と温泉旅行などに行っていた。	入居者の状況等を見ながら、時には買い物で外出しているが、主にウッドデッキでお茶を飲む等事業所内で外気浴を行い気分転換を図っている。	日常外出をこれまでの生活の継続と捉え、ストレス解消や五感刺激の機会として活用されるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとしてお金をお預かりしているが、いろいろと問題も多く、個人個人が所持し使える状態にはなっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある時には電話でお話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の温度や湿度の調整をこまめに行うようにしている。また、季節のお花を飾ったりしている。	居間兼食堂のテーブルは気の合う人同士が席を同じにし、季節を代表する凧が飾られたり、花が活けられたりして、和やかな雰囲気を醸し出している。また、トイレや浴室は清潔に保たれ不快臭もなく、廊下や厨房等は広く明るい空間が作られ、入居者の健康管理に配慮し加湿器が稼働するなど、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの席は気の合う人を組み合わせて座って頂くようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より使い慣れたもの(テーブルやサイドテーブルなど)を持ってきていただいている。	全居室が南向きで日当たりも良く明るく温かく、居室にぬれタオルを掛け湿度調整を行うと共に、温度計で温度調整を行うなど快適に過ごせるよう配慮されている。また、使い慣れた馴染みの椅子やスタンド・家具等が持ち込まれ、その人らしい居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室を間違えないよう表示したりしている。		